

1. 国語科の継続した取り組み

① 南風録スクラップ帳の活用（全学年の週末課題）

1/29(月) 提出物。題・意味・問いも(つかり)取り組みよう!!

南風録 事故や犯行の瞬間を捉えた映像をテレビ番組でよく見るようになった。街のあちこちに防犯カメラが設置されているからだろう。常に監視されている社会は薄ら寒い。防犯には一定の効果は上げているようだ。▼昨年の刑法犯の認知件数は91万5千件で、過去最少を更新した。戦後初めて100万件を割り込んだ一昨年をさらに下回った。窃盗犯が大幅に減ったことが主な要因だといふ。犯罪にとつて、街を見張っている「機械の目」は、厄介な存在に違いない▼しかし、治安が良くなった実感はあまりない。振り込め詐欺の増加には歯止めが掛からず、インターネットを悪用した巧妙な手口も目立つ。顔の見えない空間で人の心をもてあそぶ犯罪に、監視の目が行き届かないのがもどかしい▼鹿児島県内でも高齢者が大金をだまし取られたり、会員制交流サイト(SNS)をつかって、若者が性犯罪に巻き込まれたりするケースが後を絶たない。だれもが被害者になる可能性がある▼スマートフォンやスマートフォンの普及で世の中が便利になったが、半面、家族や地域とのつながりが薄れ、孤立する人もいる。そんな社会の弱みにつけ込む犯罪の増加が進んでおり、心配になる▼身近な人に変わった様子はないか。犯罪から守るため、周りの一人一人が「心の目」の感度を高めたい。防犯カメラを増設するよりも、被害を減らす効果は大きいと思う。

《2018・1・23》

語句の意味調べと感想、音読の他、3学期からは文中からの設問も取り入れている。

問い 誰かが被害者になる可能性がある、とは何の被害のことですか。2つ答えなさい。

①

②

意味 ① 潜在(せんざい) ② 態度(かんど)

② 「若い目」への投稿

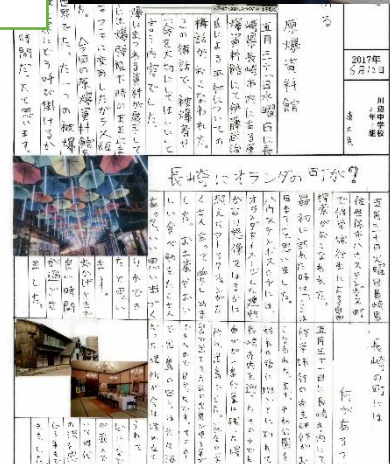
今年度は11月の月間賞をいただけて、生徒も職員も励みになった。定期的に生徒の作文が掲載されるとみんなでN I Eをがんばっていると実感できる。生徒の自主投稿も呼びかけたい。

2017年の掲載
二月「家族で食べる朝ごはん」
三月「人生初のクラス替え」
四月「祖父が作った仏壇」
六月「新聞を学びに生かす」
八月「多くの思いこもる名前
大事に」
九月「大好きな南九州市」
十一月「くやし涙をばねにする」



③ よむのび教室の開催と新聞づくり（2年）

修学旅行のまとめで新聞をつくるため、写真の撮り方や記事の書き方をレクチャーしていただいた。1年生でも、「新聞の読み方」について学ぶ予定だったが未実施。今後実態に即した内容で依頼する。



④ 新聞よむのびコンクール（1年と2年の冬休み課題）

各自の取り組みに加えて保護者コメントが必要であるが、ほぼ全員が提出できた。学校だより、学級通信、PTA新聞等を通じN I Eへの理解と協力が広がっている。保護者対象よむのび教室も検討する。（保護者のコメントより）

○最近は新聞を読む機会も増え、物事を色々な視点で見られるようになってきていると思います。

○テレビの情報だけでなく新聞の記事にも目を通し人の気持ちや詳しい状況を知り、大事なことに気付けたようです。○普段から南風録などで新聞を読み、続けることで文章力がついていくと思います。

⑤ 新聞感想文コンクール（3年夏休み課題）

七月二十日の語学学校の記事を読んで



川辺中学校
三年 白澤 友優夏

入選！

七月二十日のカンボジアの語学学校の記事を読んで、大切なことを学べた。

貧しく自分の夢をかなえることができない子どもたちのために、語学学校を外国で運営している大学生の方が行ったことが本当にすごいと思った。それは、カンボジア旅行に初めて行ったときに知った教育の場がないという問題を、すぐにその場でガイドの方に協力を申し出て、子どものために学ぶ場所を作ったということだ。語学学校ができたことでカンボジアの子どもたちは、自分の夢に向かって勉強ができる。この学校設立に携わった方たちは、多くの人が地元の人だと思う。地元の人だからこそ、いろいろなおもしろいことがあつただろう。しかし、一番はうれしいという思いにちがいない。これほど子どもたちやカンボジアの人を思いすぐに行動することができた大学生の方が本当にすごいと思う。どんなに助けたいと思ってもなかなか行動に移すことはできない。私も生徒会で、新しい取り組みをしようと考えていても、すぐに行動することができない。学校という規模の中でも難しいのに、外国で語学学校を設立するとなると、もっと困難である。教師を探さなければならぬ。場所を確保し学校を建てなければならぬなど多くの問題も出てくる。その問題も解決して学校ができ、多くの子どもが通学していると聞けたときの安心と喜びははかりきれないだろう。

子どもたちは、ツアガイドなどになれるようこの学校でたくさん学んでいけたらいいと思う。

この学校に通い、夢がかなえられると家族を養うこともできるため、貧困を抜け出すきっかけになるのではとても期待されているようだ。

「貧しくても必死に勉強に励む子どもたちがいることを知ってほしい」というメッセージ。カンボジアだけではな

い貧困問題だが、このことをきっかけに各地で少しでも教育や病気などの課題が改善されることを願っている。

私は将来、教育関係の職に就きたい。この記事を選んだのもそのためだ。世界の子どもたちのために何か行動ができる人はとても素敵だ。自分も何か多くの子どもたちにできるかな、と思う反面、自分にそんなことできるのか、と思う気持ちもある。しかし、この思いをのりこえることができたから、多くの人の役に立てる準備ができてきた証なのかもしれない。

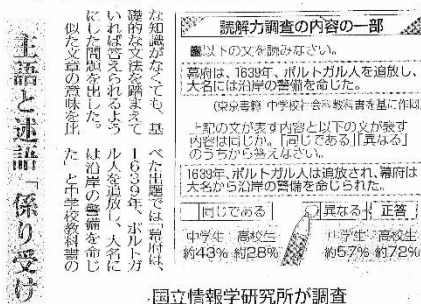
まだ教育関係の仕事という漠然としたことしか考えられていないが、学校の先生になるかもしれない、全く別の仕事をするかもしれない。どんな仕事をしていても、人のために何かできないか、協力できることはないか、ということを考えてられ、実行できる大人になっていたいと思う。

この記事を読んで、夢に向かって努力すること、そして多くの人のために自分が何かできないか考え、行動に移すことの大切さを学べたと同時に、その難しさも学べた。今年受験の年だ。自分の将来は自分にかかっている。悔いのないよう、努力し、目標に向かって困難をのりこえながら成長し、受験にのぞめるようにしたい、と心から思えた。この記事と出会えて本当に良かった。

⑥ 記事の読み比べ（3年）

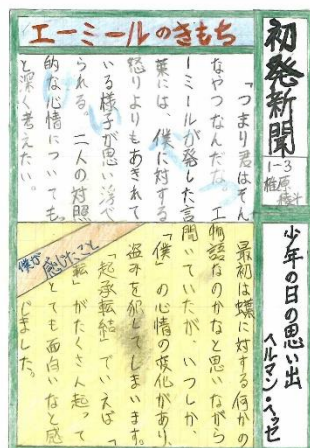
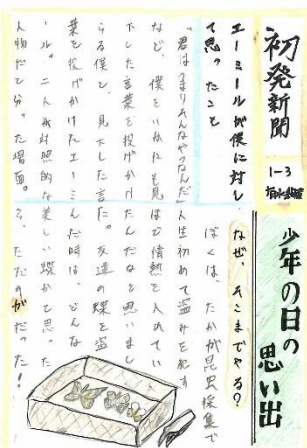
日々の指導の中で、同じ指摘を受けているはずなのに新聞の記事として読むと深刻さが伝わるようだ。国語力関連の記事は随時取り上げるようにしたい。

教科書や新聞 正しく理解できる！
中高生の読解力ピンチ



⑦ はがき新聞の活用（1年）

詩の鑑賞や初発の感想で楽しく取り組んでいる。



二紙の社説を読み比べ、書き手の意図、取り上げ方に違いがあると気づくことができた。

2. 各教科等の実践・生徒の活動

今年度は研修で「学力向上につながるN I E」を呼びかけ、教育課程編成時に各教科等で活用場面を作ってもらった。全校的な取組がなされているからこそ、教科での特化した取組で効果を狙えると感じる。

今年度の本校教育課程より 各教科等でのN I E 単元計画 は今年度の実践			
	1 年	2 年	3 年
国語	情報の集め方を知ろう 新聞の紙面構成の特徴を知る 生徒が興味関心を持ちやすい話題の記事を随時授業で取り扱う	メディアと上手に付き合うために 新聞記事を比べる	新聞の社説を比較して読もう 読書に親しむ一世界の中で 世界の人々の姿を知り人間の生き方や社会について考える
社会	新聞記事を使いさらに深化する。 ・ヨーロッパ ・江戸時代の滅亡	新聞記事を使いさらに深化する。 ・新しい学問と化政文化 ・鹿児島県の農業	新聞記事を使いさらに深化する。 ・国際連合の仕組みと役割 ・豊かさと経済
数学	第7章の資料の活用において様々なデータ・グラフ・表を参考資料として使う。	確率宝くじの記事から期待値を求める 南日本新聞社のワークシートを活用	8章 標本調査 視聴率の記事から視聴率の求め方を考える。
理科	・大地の変化→東北大震災についての資料、教訓の活用（ハザードマップ）・夏休みの自由研究の資料活用や題材設定	定期的に気象情報や天気図を活用して、季節による天気の特徴について考える。 天気図の提示	・「科学技術と発展」において、新聞記事を調べさせる。 ・月齢の周期
音楽	箏の表現を味わいながら「さくらさくら」	雅楽の豊かな表現を味わいながら「越天楽」	音楽の特性と魅力「世界の諸民族の音楽」
美術	楽しく伝える文字のデザイン	夏休み課題で音楽に関する記事をみつけ感想を書く取組（全学年）	
保健	スポーツについて調べよう ～興味あるスポーツを（歴史・記録）	健康・環境について調べよう ～健康・環境に関するニュース	スポーツについて調べよう～興味あるスポーツを（歴史・記録）
技術	夏休み課題でスポーツ関連の記事と感想（全学年）		情報に関する技術
家庭	衣服や住居に関する記事を集めよう。	食や消費生活に関する記事を集め生活に生かそう。	幼児に関する記事を集めて身近な存在として考えてみよう。
英語	有名人の紹介記事を使い、簡単な自己紹介・他己紹介文を作る。	地方記事を使い、特産物・名所等含む町紹介の英文を作成する。	中学生向けの英字新聞記事を提示して、概要を読み取る。
道徳	① ジェンダーをテーマに「心の日」で一斉授業（2年） 新聞活用の研究授業と職員研修（2月予定）		佐々木貞子さんの記事を紹介
学	職業について調べる	地域・社会に生きる一員として	将来を見通した進路選択をしよう
②新聞記事を使った毎日のスピーチ（各教室） ③生徒会本部役員の「はがき新聞」作り 語句等を調べながらニュースキャスターのような気持ちで興味のある記事について発表（特別支援） 「若い目」の投稿作文などを紹介（学年通信） 宅習帳に選んだ記事と感想の取組を毎週1回（学級） ④よむのび教室で「新聞の作り方」を学び、修学旅行のまとめ新聞を作る（2年）			

①「ジェンダーがテーマの授業」

2017年8月27日の記事と「たまたま女に生まただけ」という資料を題材に社会について考えを深めた。南九州市でも女性議員が3人しかいないことなど、記事から様々な実態に触れ、自分らしさやその人らしさを大切にする社会を目指そう、とまとめた。

②「はがき新聞づくり」

南日本新聞元日号で掲載するための「未来新聞」を、結成したばかりの生徒会本部で担当させてもらった。よりよい学校づくりへの意識と、チームワークの向上が見られた。掲載後の反響で、生徒会活動への意欲も高まった。

③「帰りの学活で行うスピーチ」



(学級担任の先生方の声)

- 興味を持って友達のスピーチを聴いている。○人前で話をする態度(声量・姿勢)がよくなってきた。
- 記事に対する自分の思いをしっかりと書けるようになってきた。○時事問題の知識が豊富になった。
- ニュースも見erようになったという生徒が増えた。○生徒の発表の最後に担任が自分の考えを話したり、更なる話題を生徒全体に投げかけたりすることで、記事の内容理解が深まっている。
- 普段、自分から意見をなかなか言えない生徒も自分の番が回ってくるのでスピーチをしっかりと行っている。
- 日直に新聞記事のスピーチをさせると、その生徒の興味関心や考えていることがわかってよい。

④「4月の職員研修でよむのび教室」

「今なぜNIEが求められているのか」講話と質疑応答

(参加された先生方の感想より)

- 新聞購読が県内で減っていることと貧困率との関係が興味深かった。○新聞の各面の読み方について教えていただいて見方が変わった。深く考えすぎず感じたことを文章化するように生徒へ伝えたい。「若い目」の反響は大きく、読者には紙面を変えていく力があることを知った。○他県の実践例を参考に教科指導でNIEを取り入れていきたい。



新聞名は生徒会のスロ
ーガンを広く知ってもら
うため「百花繚乱」に。「も
し自分が校長先生だった
らこんな学校をつくりた
い」という発想で楽しく新
聞作りができた。

